

第32期第2四半期株主通信

(平成27年10月1日から平成28年3月31日まで)



セントラルサービスシステムグループ
CENTRAL SERVICE SYSTEMS GROUP
株式会社CSSホールディングス

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より当社グループにひとかたならぬご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。平成28年3月31日を以て、連結第32期上半期が終了いたしましたので、ここに株主通信をお届けし、当社グループの事業概要をご報告申し上げます。

当連結会計年度の業績の詳細は記載のとおりとなりますが、おかげさまを持ちまして売上高をはじめとして、営業利益、経常利益、四半期純利益の全てにおいて、前年同期の実績を上回り、増収・増益で終わることができました。また通年の予想についても、好調に推移した上半期の実績をもとに上方修正させていただきました。

下期に向けては、景気の足踏み状態に加え、世界経済の不確実性や熊本地震の経済に与える影響等のリスクはあるものの、当連結会計年度は現在推進中の中期経営計画の2年目となることから、最終年度の目標達成へ向け着実な成果をあげるべく全社一丸となって努力していく所存でございます。

引き続き、株主の皆さまにおかれましては、倍旧のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 林田 喜一郎

第2四半期の業績レポート

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、足踏み状態にある個人消費の影響や、年明け以降の金融市場の混乱が企業の景況感を下押しする状況にあることから、穏やかな景気回復基調にはあるものの、全体としては弱さも目立ってきています。

先行きについては、政府による3月の月例経済報告での下方修正に見られる慎重論に加え、熊本地震の影響等、景気の下振れのリスクに留意する必要があります。

当社グループにおいては、グループの主要顧客であるホテル、商業施設等では、訪日外国人増加の影響による稼働の向上に伴い売上も概ね好調に推移しています。また、企業の設備投資持ち直しの動きを受け、空間プロデュース事業においても、売上は好調に推移いたしました。このような環境下において当社グループは、中期経営計画2年目の目標を達成し、更には前年同期実績を上回る収益を確保すべく、売上拡大と効率的な費用の執行に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における連結業績は以下のとおりとなりました。

連結売上高	9,835百万円
(前年同期比)	12.1%増
連結営業利益	443百万円
(前年同期比)	67.8%増
連結経常利益	413百万円
(前年同期比)	63.9%増
親会社株主に帰属する四半期純利益	321百万円
(前年同期比)	82.7%増

続きまして、当第2四半期連結累計期間における事業別の状況は次のとおりです。

スチュワード管理事業 株式会社セントラルサービスシステム（CSS）

当事業は、ホテル・レストランにおける食器洗浄を中心としたスチュワード管理を全国展開している当社グループの中核事業です。

当第2四半期連結累計期間においては、主要顧客であるホテルが好調に推移したことに加え、大型案件を含む2件の事業所が新たに開業したことで前年

同期以上の売上を積上げることができました。また清掃事業における一部の不採算事業所については撤退をすることで、収益基盤の強化を図りました。

費用面においては、新規事業所の開業に伴う人件費が増加したことで売上の伸びを上回る執行となりました。

総合給食事業 株式会社センダン（SDN）

当事業は、従業員食堂を中心にレストラン運営などフードサービスに係る総合給食事業を全国展開しております。

当第2四半期連結累計期間においては、既存事業所においてフェア・イベントを継続的に実施することで、集客に努め、売上の安定化を図りました。また、利益体質向上へ向けての施策を実施、不採算事業所改善への取り組みを強化いたしました。

費用面については、原価及び人件費のコントロールに注力することで、効率的な執行を行いました。

映像・音響機器等販売施工事業 東洋メディアリンクス株式会社（TML）

当事業は、音楽関連事業とセキュリティ・システム、映像・音響システムの設計施工事業を幅広い顧客向けに展開している当社グループの中核事業です。

当第2四半期連結累計期間においては、引き続き金融営業部門が売上高確保に貢献すると共に、商業施設・ホテルを中心とする法人営業部門及び開発営業部門の売上も比較的堅調に推移いたしました。今期より強化を図った関西エリアについても実績が積み上がったことで、売上高全体としては、前年同期及び計画値を上回ることとなりました。

費用面については、管理可能費を中心に削減に努めると共に、コールセンターの業務の一部をアウトソーシングするなど業務の効率化を図りました。

音響・放送機器等販売事業 音響特機株式会社（OTK）

当事業は、大型スピーカーやアンプ等のプロフェッショナル向け音響機器の輸入及び販売事業を展開しております。

当第2四半期連結累計期間においては、日常の営

業活動に加え、九州エリアでの展示会への出展、試聴会の参加、四国地区での技術者研修会への出展等、拠点活動を充実させることで、これまで以上に全国をカバーする営業を展開いたしました。また、主力海外ブランド幹部の来日に合わせて営業戦略の擦り合せや同行セールスにより、連携強化を図りました。この結果、大型案件を含め順調に納入件名が伸びたことで、売上高は前年同期及び計画値を大きく上回ることとなりました。

費用面においては、円高傾向に伴う仕入原価の低減が寄与すると共に、販管費については、引き続き効率的な執行に努めました。

食材販売事業 ヤマト食品株式会社 (YMT)

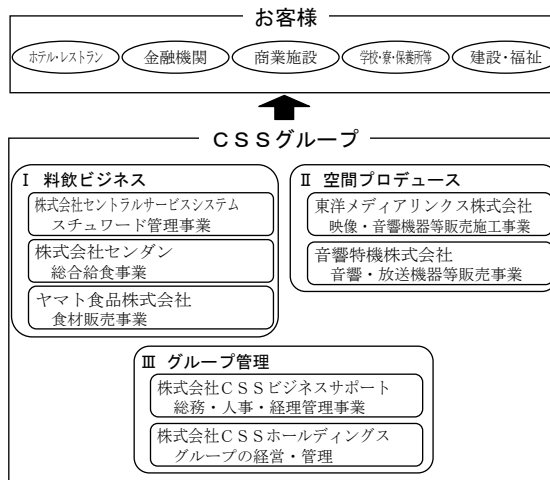
当事業は、SDNに加え、当社グループとしてフードサービスの更なる拡大へ向け、高齢者福祉施設、建設現場事務所を中心に献立付食材販売並びに受託給食を展開しております。

当第2四半期連結累計期間においては、これまでの担当地域を中心とした個別営業活動に加え、高齢者福祉施設を展開する大手企業本部への一括営業展開により、具体的な提携がスタートしたことで、累計で115件の新規案件を獲得することができました。一方で概ね新規受託に相当する失注もあったことで、売上については、前年同期をやや下回ることとなりました。しかしながら、値上げ交渉により一部単価アップが図られたことと、期初から取り組んでいる仕入の一元化による原価率低減の効果が表れたこと、また、その他費用面においても、人件費及びその他の経費の効率的な執行に取り組み、営業利益では前年並びに計画値を大幅に上回る結果となりました。

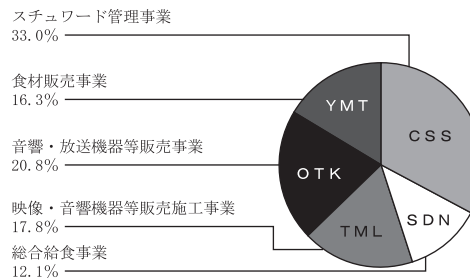
総務・人事・経理管理事業 株式会社CSSビジネスサポート (CBS)

当事業は、総務・人事・経理業務をグループ各社より受託しております。

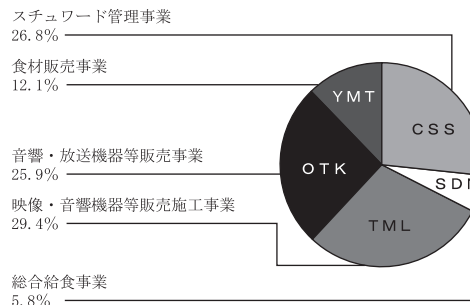
当第2四半期連結結果計期間においては、引き続きグループ各社のニーズに合わせて管理業務の効率化を図りました。採用を受託するグループ会社については、新卒者への対応及び来年度の採用へ向けての準備を始めました。また、IT部門においては、YMT社の販売管理システムの導入をサポートいたしました。外部企業の業務についても継続して受託しております。この結果、業績は概ね計画通りに推移いたしました。



売上高構成比率 (事業別)



営業利益構成比率 (事業別)



四半期連結財務諸表

■連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目		当第2四半期末 2016年3月31日現在	前 期 末 2015年9月30日現在
資産合計		7,380,069	7,230,879
	流動資産	4,479,988	4,307,201
	固定資産	2,900,081	2,923,678
負債合計		4,937,315	5,067,382
	流動負債	3,405,024	3,386,445
	固定負債	1,532,291	1,680,937
純資産合計		2,442,753	2,163,496
	株主資本	2,347,501	2,071,522
	その他の包括利益累計額	95,252	91,974
負債・純資産合計		7,380,069	7,230,879

■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	当第2四半期 2015年10月1日から 2016年3月31日まで	前第2四半期 2014年10月1日から 2015年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△100,061	△20,074
投資活動によるキャッシュ・フロー	162,978	△318,242
財務活動によるキャッシュ・フロー	△188,029	663,276
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△125,113	324,959
現金及び現金同等物の期首残高	1,302,554	1,089,726
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	8,942
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,177,441	1,423,628

■連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	当第2四半期 2015年10月1日から 2016年3月31日まで	前第2四半期 2014年10月1日から 2015年3月31日まで
売上高	9,835,495	8,777,545
売上原価	8,039,145	7,151,613
売上総利益	1,796,350	1,625,932
販売費及び一般管理費	1,352,518	1,361,362
営業利益	443,832	264,569
営業外収益	28,564	36,675
営業外費用	58,398	48,693
経常利益	413,998	252,551
特別利益	33	—
特別損失	1,993	333
税金等調整前四半期純利益	412,038	252,218
法人税、住民税及び事業税	108,567	69,531
法人税等調整額	△17,910	6,761
親会社株主に帰属する四半期純利益	321,381	175,925

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

今後の取り組み

スチュワード管理事業 株式会社セントラルサービスシステム（CSS）

当事業は、主要顧客であるホテルの業績が下半期も堅調に推移することが予想されることから、上半期の実績を基礎として、下半期は概ね前年並みの売上高を確保することで、通年で前年以上の売上を目指してまいります。また、積極的な営業活動を展開することで、新規大型案件の獲得を目指します。

利益については、費用の執行状況をエリアごとに精査することで計画の達成を図ります。また上半期に引き続き、不採算事業所については契約交渉を行うと共に、撤退も視野に入れつつ収益基盤の強化を図ります。

総合給食事業 株式会社センダン（SDN）

当事業は、下半期についても話題性のあるイベントやメニューを工夫することで、従業員食堂としての付加価値を高め、集客につなげてまいります。熊本市内の事業所については、地震の影響を受け顧客であるホテル自体の営業再開の目途が立たないことから収益に及ぼす影響はあるものの、全国レベルの営業活動を強化することで新規案件の獲得を目指し売上高を確保してまいります。

また、衛生管理については、本部機能を強化することで、各事業所に対しこれまで以上にきめ細かい指導を徹底することでお客様からの信頼を獲得してまいります。

映像・音響機器等販売施工事業 東洋メディアリンクス株式会社（TML）

当事業は、金融営業部門について、通年で推進中のプロジェクト件名を継続して販売していくことに加え、店舗単位でのリニューアル案件及び関西拠点での件名の拡大を推進してまいります。法人・開発営業部門については、上半期同様、大手商業施設・ホテル・官公庁等への納入拡大を図ってまいります。

音楽・BGM事業については、訪日外国人の増加に伴う多言語放送の制作拡大とこれまでのCDを用

いたシステムからインターネット経由での配信へのリプレースを加速してまいります。

音響・放送機器等販売事業 音響特機株式会社（OTK）

当事業は、下半期については、上半期の実績を基礎とし、確実に売上を積上げることで前年以上の売上高を確保してまいります。輸入商品については、従来のブランドと併せて新たに獲得したブランドも含め、売上高全体に占める割合を高めていくことを目指してまいります。また、全国規模での営業活動の更なる充実を図るべく、東北エリアでの営業所の開設へ向け準備を推進してまいります。

食材販売事業 ヤマト食品株式会社（YMT）

当事業は、上半期にスタートした高齢者福祉施設を全国展開する大手企業との連携をより強固にすることで、神奈川地区一円に加え、東海地区での新規案件の獲得を推進し、一層の売上拡大を目指してまいります。

仕入れの一元化による原価率低減へ向けての取り組みを継続すると共に、土曜日特別配送の廃止をはじめとした休日出勤の削減を実現し、時間外勤務の抑制継続と併せて人件費の安定化を図ってまいります。

また、販売実績をリアルタイムで把握することによる業務の効率化を目的として、販売管理システムの導入を進めてまいります。

総務・人事・経理管理事業 株式会社CSSビジネスサポート（CBS）

当事業は、引き続きグループ内の管理業務を受託することで、グループ経営の効率化を推進すると共に、採用を受託するグループ会社については、新卒及びパート・アルバイトの安定した採用へ向け努力してまいります。

通期の業績見通し

2016年9月期の業績見通しについては、下記のとおりとなります。

通期につきましては、比較的堅調に推移した上半期の実績を基礎として、各事業が計画値を着実に達成すべく収益を積上げることで前年を上回る売上高と営業利益を目指してまいります。

(単位：百万円)

	2012年9月期実績	2013年9月期実績	2014年9月期実績	2015年9月期実績	2016年9月期計画
売上高	12,549	12,326	12,557	17,654	18,000
営業利益	130	196	191	334	380
営業利益率	1.0%	1.6%	1.5%	1.9%	2.1%

株式の状況／会社概要

■大株主 (2016年3月31日現在)

	所有株数	持株比率
野口 緑	1,341,900株	25.80%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(リテール信託口620090802)	654,000株	12.58%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(リテール信託口620090803)	606,000株	11.65%
S・T・E・C株式会社	423,500株	8.14%
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	155,500株	2.99%
三瓶 秀男	130,800株	2.52%
原田 千壽	124,800株	2.40%
株式会社広美	80,000株	1.54%
ゴールドマンサックス・インターナショナル	69,400株	1.33%
楽天証券株式会社	66,400株	1.28%

※上記のほか、当社は自己株式85,365株を所有しております。
上記持株比率は、自己株式(85,365株)を控除して計算のうえ、小数点第三位を四捨五入して表示しております。
また役員向け株式給付信託の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が155,500株保有しております。

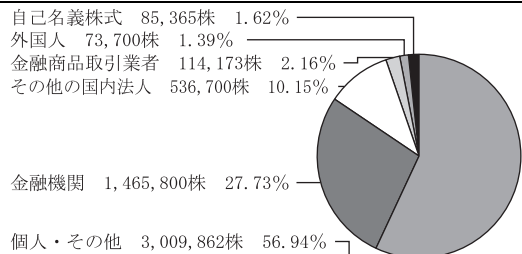
■株式の状況 (2016年3月31日現在)

発行可能株式総数	20,776,000株
発行済株式総数	5,285,600株
株主数	1,734名

■会社概要 (2016年3月31日現在)

会社名	株式会社C S Sホールディングス	
本社所在地	東京都中央区日本橋小伝馬町10番1号	
会社設立	1984年(昭和59年)12月	
資本金	393百万円	
連結従業員数	5,791名(うち、パートナー(パート・アルバイト)5,256名)	
役員	取締役会長	野口 緑
	代表取締役社長	林田 喜一郎
	専務取締役	川勝 雄介
	取締役	三瓶 秀男
	取締役	磯邊 和彦
	取締役	辻 勝太郎
	取締役	森永 洋一郎
	取締役(監査等委員)	渡邊 和男
	取締役(監査等委員)	山館 博康
	取締役(監査等委員)	越智 敦生

■株式分布 (2016年3月31日現在)



※分布比率は、小数点第三位を四捨五入して表示しています。

株主メモ

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで

定時株主総会 毎年12月

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

<住所変更等のお申出先について>

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

<未払配当金の支払について>

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。